

## 支部「輪読勉強会」の開催にあたり

各支部におかれましては、同じ支部内に住む教会、ようぼく同士が、談じ合い、たすけ合い、励まし合って、お互いの成人を目指し活動をお進めのことと存じます。

さて今は、教祖 140 年祭が打ち出され、年祭活動三年千日へ向けた心づくりのときです。

このたび、教区長会議では、年祭活動に対する雰囲気高め、おたすけの心を涵養する機会をつくるべく、月に一度教会長が集まる支部例会の場を活用し、教会長、ようぼくを対象にした「輪読勉強会」の開催を各支部に呼びかけることとなりました。

「輪読」とは、一つの本のある範囲を数人に割り当て、参加者が順番に音読し、お互いが意見を交わして内容を読み深める方法です。支部例会前後の時間を活用して「輪読勉強会」を実施することで、教理、教話に親しむ機会、お互いの成人を図るための場となればと考えます。

「輪読勉強会」には『三代真柱様お言葉 教会内容の充実』を課題書といたしました。教会が、それぞれの地域で光り輝くような存在、たすけ道場であることを目指して、今、あらためて三代真柱様のお言葉を心に治め、年祭活動の出発に向けての心づくりとさせていただきます。

輪読を行う人数は、できれば、6人ぐらいのグループに分かれて行うのが望ましいです。尚、支部によっては会場の都合で小グループに分かれて行うことや、人前で読んだり発表することが苦手な人もある場合もあると思います。必ずしも参加者全員が輪読をできなくとも、また形態や時間なども臨機応変に対応していただければ結構です。

大切な点は、

- ◆ 順番に従い、一人が割り当ての範囲で音読し、他の人はそれを聞きながら黙読する。
- ◆ 何人かの人に、心に留まった部分を挙げて、その理由を発表してもらう。
- ◆ ざっくばらんな打ち解けた雰囲気、さらに意見や考えがあれば発表してもらう。

ということです。そのうえで、司会者は、和やかな雰囲気の中、互いに協力して、楽しんで進めていきますようご配慮の程をお願いいたします。

ぜひ、教区、支部において、毎月の支部例会前後、輪読勉強会を開催していただきますよう積極的な取り組みをお願いいたします。

立教 185 年 3 月 27 日

教 区 長 委 員 会

## 輪読勉強会の進め方

(所要時間の目安は30分です)

### ① 輪読する範囲（全体、各自の割り当て分）やテーマを伝える

- ・ 司会は、その日の輪読範囲（例えば「教会の意味①」（10～22頁））を伝える。また、人数に応じた各自の割り当て分（〇頁〇行目～〇行目）を決めておく。
- ・ 司会は、輪読範囲における真柱様お言葉の場面や対象者について伝える（例；大祭神殿講話、新任教会長の集い、会長就任奉告祭、創立記念祭など）。

### ② 輪読の進め方・気を付ける点を説明する

- ・ 司会は、③～⑤の進め方を説明する。
- ・ 誰かが音読している間は、読み手以外の方は、音読に合わせて黙読する。
- ・ その際、④の「発表」に備え、心に留まった一節やお言葉に棒線をつける。
- ・ 読み間違いなどがあっても、笑うなど相手に不快な思いをさせないこと。
- ・ 人のコメントにはしっかりと耳を傾け、その考えや意見を尊重する。

### ③ 輪読

- ・ 司会が最初に読み、その後、各自の割り当て分に従って順番に音読する。
- ・ その際、司会は、各自が読む範囲の始まり出しと区切り目に声をかけ指示する。（例；「〇頁〇行目からお願いします」「はい、そこまでです」など）。
- ・ 高齢者など、読めない、読みたくない人には無理強いをしない。

### ④ 発表

- ・ ③にて一通り参加者による輪読を終えたら、司会は、輪読した順番で、その日に輪読した範囲内（自分が音読した以外の範囲も含める）で心に留まった一節やお言葉を挙げて、その理由や思いを発表してもらおう（疑問点や質問でもよい）。
- ・ 各自の発表が終わるごとに、司会から、必ず「ありがとうございました」と言葉を添えること。

### ⑤ ディスカッション

- ・ 全員の発表が終われば、互いの意見や感想についてねりあいをする。
- ・ 感じたこと、気づいたこと、考えたことなど何を話してもよい。
- ・ 全員でなくてもよい。また時間がなければディスカッションは省略してもよい。

### ⑥ まとめ

司会は、参加者へのお礼の言葉とまとめの言葉を述べる。